

穀物乾燥調製施設を拠点に有機JAS米の生産拡大

1. 農事組合法人ファーム宇賀荘(安来市)

- 【設 立】基盤整備を契機にH20年3月設立
 【組 合 員】249人
 【経営面積】201ha(県内最大規模)
 【経営内容】水稻124ha、大豆77ha



宇賀荘地区農業生産法人等育成緊急整備事業
(H12～H19年度)

2. 取組の経過及び概要

法人設立前のH15年から、特色ある米づくり事業により安来市特産のドジョウを放流(約25万匹)し、「どじょうの住める環境で育ったお米」として、**農薬不使用の「どじょう米」の栽培を開始。**

主な販売先は、JAしまねを通じてグリーンコープ(福岡)、東洋ライス(株)。

目標とする有機JAS認証を取得するためには、外部委託先の乾燥調製施設が有機JASに適合しないため、**法人自らが乾燥調製施設を整備**することで、念願の有機JAS認証取得を実現。

R4年8月25日には有機JAS認証審査を経て、**約10haで有機JAS認証を取得。**

有機JAS認証面積 R6 16.7ha⇒R7 約20ha



R2.9月補正「新型コロナウイルス感染症対策農林水産業収益向上緊急支援事業」

【施設面積】430㎡

【処理能力】最大16t/日

※R4.3月完成

3. 取組の成果

(1) 有機米多収技術の目標を達成

- ①冬期湛水による**トロトロ層の形成と機械除草**など、県と連携した有機米多収実証の結果、目標を大幅に達成(R4実績)。

(単位: 10a, 生産費60kg)

	目標値※	有機米	目標対比
収量(kg)	540	541	同等
労働時間(h)	30	10.7	64%時間短縮
生産費(円)	13,000	11,116	17%コスト削減

※目標値は、県が有機米多収栽培を想定し示した目標数値

- ②**大区画ほ場に対応した栽培技術**を確立するため、ロボットによる抑草など新技術を積極的に導入。また、県内では数少ない女性オペレーターが大型機械作業に大活躍。



アイガモロボ



機械除草

(2) 有機JAS米の生産拡大

- ①**契約栽培により高単価で販売**し、有利販売により一層の生産拡大を目指す。
- ②**有機JAS米の生産目標面積25ha**に向けた作業の効率化と更なる技術の向上を目指す。
- 将来的には、周辺地域の有機米栽培志向者の乾燥調製の受入に拡大することを期待。

代表者から一言



念願の乾燥調製施設が完成し、**有機JAS認証を取得できた。**
施設が有機JAS米の生産拠点となり、地域の有機農業普及の一助にしたい。

岡田一夫代表理事組合長(76才)

4. 課題と今後の取り組み方向

- (1) 大区画ほ場に対応した栽培技術の確立
- (2) JAしまねが中心となった有機JAS米の販売先確保と計画的な周年販売のための低温貯蔵施設の整備
- (3) 安来市全体の有機農業、有機JAS米の振興方針として「**やすぎオーガニックビレッジ構想**」の策定